

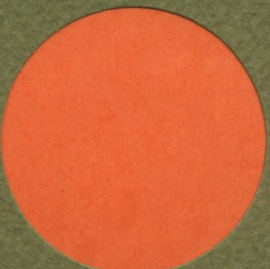
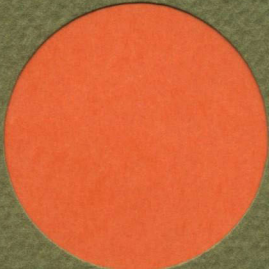


国際化時代をむかえる家電製品の企画とデザイン
ヨーロッパのデザイン賞

1

INDUSTRIAL DESIGN NEWS

●●●●●●●●●● 産業デザイン情報 ●●●●●●●●●●



105 東京都港区芝浜松町3

日本産業デザイン振興会
世界貿易センタービル別館
電話 435-5633

《国際化時代をむかえる家電製品の企画とデザイン》

INDUSTRIAL OUTLOOK 1970 より

インダストリアル・アウトック (INDUSTRIAL OUTLOOK 1970) は、毎年アメリカ政府によって発表される産業概観とでもいうべき資料で、きわめて重要な資料の一つです。家電製品を中心にその概要を報告しますと、家庭用耐久消費財 (厨房用調理器具、冷蔵庫、洗濯機、木・金属家具、マットレス、ベッド等) は、いわゆる「ぜいたく商品」 (SPECIALITY GOODS) ではなく、使い古したり、手入れをする前に、惜しげもなく買いかえられる「実用商品」 (CONVENIENCE GOODS) となりました。

1. サイクルをかえ、水温をかえることで新しい繊維やカーテン等を洗うことのできる洗濯機
2. セラミック甲板をもつ電気レンジ、調理台としても使用出来るもの
3. 人工的にアンティーク仕上げされた家具
4. 改良されたプラスチック・フォーム・マットレス
5. 小さいアパートやモービルホーム用のコンパクトで機能的な家具

●家電製品の生産と普及

家電製品の普及率は、生活水準を示すバロメーター的な役割を果たしています。1970年度の家電製品の工場出荷額は前年度の67億ドルに比べて3%増の69億ドルに達する見込みです。現在、アメリカでは10億点の家電製品が使われ、そのうち25,600万点は主要な家電製品で占められ、6,150万家庭に対して1家庭4点の割合で使われています。残りの6億7700万点は、ポータブルな家電製品で、1家庭当たり11点の割合で普及しています。また、年間生産量は、主要製品2,200万点、ポータブル製品10,380万点に達します。

●過去10年間の花形商品 (STAR PERFORMERS)

過去10年間 (1960~70) の花形商品は、この10年間に1,200万点増のブレンダーで、電源を有する家庭 (WIRED HOME) の25%が持つにいたりしました。10年以前には僅かに7%の家庭しか持っていなかったのです。また、ディッシュ・ウォッシャーも成長機種の一つで、この10年間に約1,000万点の増加となり、PrerinsingやScrapingの手間も省け、最新の製品は、rins-cycleの変化、wash-cycleの変化、フィルターリングの改善に加えて、食器類のセッティングが容易となり、洗滌効果も極めて高いものになっています。

●潜在市場は巨大である。

アメリカの6,150万家庭のうち (1970年)

- | | |
|------------------------|----------|
| 4,500万家庭は、ブレンダー | を持っていない。 |
| 4,900万家庭は、ディッシュ・ウォッシャー | を持っていない。 |
| 3,800万家庭は、衣類乾燥機 | を持っていない。 |
| 400万家庭は、バキューム・クリーナー | を持っていない。 |

●移りかわる花形商品

この10年間の、年度毎の花形商品はつぎのとおりです。同じ種類の商品が再びベストセラーになっているのは、機構的に改良され、便利になったからと考えられる。

- | | | | |
|-------|-------|-------|----------|
| 1957年 | 電気ナイフ | 1958年 | カン切り機 |
| 1960年 | 自動焼肉機 | 1961年 | ヘアードライヤー |

- 1963年 電気歯ブラシ
- 1964年 スライスイング・ナイフ
- 1966年 口腔衛生振動装置 (Oral hygiene pulsating units)
- 1968年 環境看視装置 (Complexion care kits)
- 1969年 ペーコン用グリル

• 既往商品のリ・デザイン

電気アイロンは、テフロンコーティングの有無にかかわらず多孔スプレイ (Multi hole spray) がつき、フライパンはすべてコゲツキ防止となり、カン切り機は、ナイフ研磨、氷削り、果汁しぼりを兼ねる製品となります。

• 安全性の強調

電撃防止のためのトースターのダブル・スイッチ。アイロン転倒防止用ヒール・スタンド。パンを反転するときのトースター・カット・オフ・スイッチ。難燃性のブランケット付き電気毛布。放射線防止の標準設定。

• 価格と材料

スチール、アルミニウム、銅、ニッケル、亜鉛の値上りが小売価格にはね返ります。例えば1トンのスチールから6～10台のレンジが出来るとすれば、1台当りの材料費は1ドル～1.25ドルの増加となる見込みです。更に労働コストの上昇がプラスチックの使用に拍車をかけます。1968年には家電産業界は27,500万ポンドのプラスチックを消費しましたが、1機種当りの材料費は漸減傾向にあります。冷蔵庫1台当りのプラスチック使用量は1970年には18ポンドでしたが1975年には約30ポンドになる見込みです。

• 電気製品の小売価格

1969年の卸売物価指数は1957～59年を100としてすべての商品の平均値が113.6であったのに、電気製品は93.0と約10%も低い水準でした。また、すべての商品の値上り(13.6%)傾向の中で家電製品は逆に7%の値下りでした。1960年と1968年の比較は表の通りです。

商品名	1960年	1968年
電気毛布	23.00ドル	17.00
ブレンダー	35.95	25.00
冷蔵庫	325.00	280.00
ドライヤー	207.28	181.73

• 1971年代の企画とデザイン

1971年代の家庭用耐久消費財の企画の前提として、次のような要件があげられます。

- 1) 地域的な特性は、その影響力がうすくなるか解消して国際的視野からの展望が必要となる。
- 2) マーケティングの焦点は、若い世代(24～35才)にしぼられ、この世代が所得の面からも基幹市場 (Mass Market) となる。若い世代は、休みなき世代 (RESTLESS GENERATION) であるという認識を新たにすべきである。
- 3) 生活様式の単位が、家族という単位から個人単位に移って行く。Family style of Life を前提とする商品企画は時代からとり残される。
- 4) アパートメントとモービルホーム用品の開発が期待される。モービルホームの生産は、全新築戸数の35%をピークに急増するであろう。
- 5) 機械化・量産化の中に伝統、優雅さ、安定感をいかにとり入れるかが1・Dの課題となる。

(K)

＜ヨーロッパのデザイン賞＞

ヨーロッパ各国のデザインセンターやデザイン振興機関などは、年間の優秀デザインを選定授賞することにより、企業のデザイン開発、デザイナーの創作意欲の向上、そして消費者の啓蒙に大きく貢献している。わが国でもよく知られているものにC.O.I.D（英国産業デザイン協議会）の＜デザイン・センター賞＞と＜エジンバラ公賞＞、イタリアの＜ゴールデン・コンパス賞＞、西独の＜GUTE FORM＞などがある。何れの場合にも最近の大きな特長は、インダストリアル・デザインの社会的意義が問題にされて来ていることであろう。

FORM 51（WG）によれば、西独のデザイン賞＜GUTE FORM '70＞では参加企業111社（1969年は109社）、候補製品398点の中14点が選定された。選定製品の中には外国製品が1点（1969年は11点）入っているが、この外製製品の受償について、

R. Gutmannは「西独デザイン賞は、根本的にコスモポリタンの性格をもつものであり、生産国に関係なく、市場に供給されているものの中、最高のものに与えられるべきである。」と説明している。

イタリアの＜ゴールデン・コンパス賞＞は、Rinascenceにより1954年に始められたインダストリアル・デザイン賞である。

1959年から1965年までは、Rinascenceにより進められて来たが現在はADIによって行なわれている。1970年の＜ゴールデン・コンパス賞＞は、その対象範囲を拡げた。即ちCASABELLA 5/70 および FORM-50によれば、デザインの存在が大きな重要性をもつ分野を積極的に探し出し、また、共同

社会生活の諸相の中でのインダストリアル・デザインの重要性和影響範囲を強調するために、インダストリアル・デザイン関係のすぐれた研究・出版活動に対しても授賞している。選考に当っては、特にインダストリアル・デザインの社会的意義が重視された。

註：ADI（Associazione per il Disegno Industriale = インダストリアル・デザイン協会）は、1965年に設立されたイタリアのインダストリアル・デザイン協会で、事実上イタリアのインダストリアル・デザイン振興の中心的役割を果たしており、ICSIDのメンバーである。その活動は、インフォメーション、ドキュメンテーション、デザイン分野での専門的問題についてのアドバイス、国内外への展示会への参加の協力、文化的事業面での活動など、巾広いデザイン振興活動を展開している。（T）



写真-1

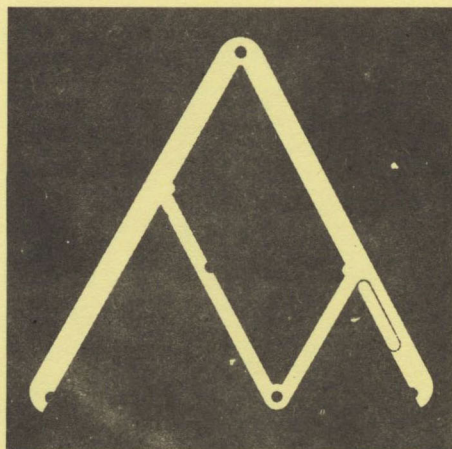


写真-2

《GUTE FORM 1970》

《GUTE FORM》の審査は、A-家庭用小型電気製品、B-計算機(DIN-9751)、
タイプライター、複写機、C-光学機器(双眼鏡、ルーペ、顕微鏡、光学的測定器、等)の
3つのカテゴリーに分けて行なわれた。ここにその数例を紹介する。

•電磁石点火式卓上ライター / Braun

デザイン: Braun プロダクト・デザイン部

円筒の規則面的切断面による押しボタンの造形的処理、炎の出口と押しボタンの機能的位置
関係など説得性のあるデザインである。 (写真-1)

•コーヒー挽き器 / Robert Bosch

デザイン: Bosch デザイン部

グラインド部分の不透明と、粉容器の透明のコントラストは、夫々の機能に応じたはっきり
した構造をひきだしている。 (写真-2)

•電子計算機 ICR 412 / Olympia Werke

デザイン: Olympia Werke 企画

電子計算機のもつ合目的性と、単純明快な造形処理が合致したすぐれたデザインである。

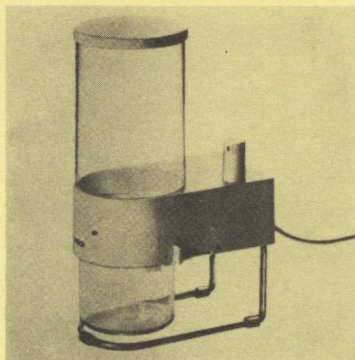
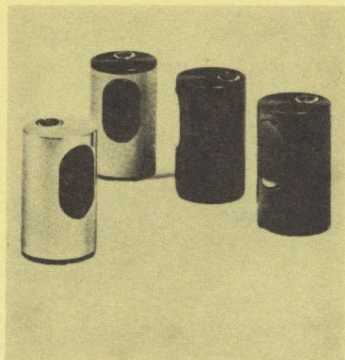
(写真-3)

•双眼鏡 8×20 / Carl Zeiss

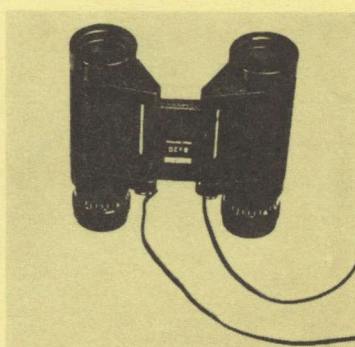
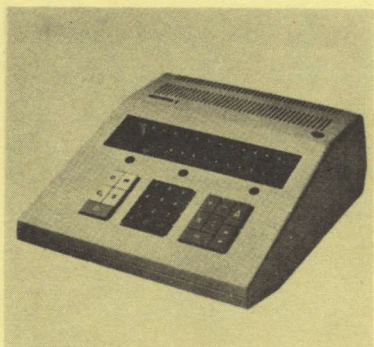
デザイン: Carl Zeiss 企画

双眼鏡 8×20は、折たたみ式の懐中用であり、無駄のないシンプルなまとまりを見せてい
る。機能的に適正な蝶番の働きにより、眼の間隔に適正な接眼レンズの位置決定などスム
ースに行なわれる。

註: 文中の授賞についての説明は、審査委員会の批評より引用



1 | 2
—+—
3 | 4



《Compasso d'Oro 1970》

ゴールデン・コンパス賞 は、対象各分野——製品もしくは製品のシリーズ、インダストリアル・デザインの研究、特定分野におけるインダストリアル・デザインの理論的・科学的研究、インダストリアル・デザインの組織、振興活動——についての検討が行なわれ、授賞されたのであるが、ここにその数例を紹介する。

• 卓上単能電動計算機 LoGos 270 / Ing. C. Olivetti

デザイン：Mario Bellini (協力者—Sandro Pasqui)

この卓上電動計算機は、「用途」の全面的再検討の結果、人間と機械との間に、より活動的な関係を創り出し乍ら、それ自体「機械」の概念から離脱しつつ、一つのコンパクトな複合体としてまとめられ、この種の機器の新しいイメージを生み出した。(写真-1)

• 長距離バス メテオール / Carrozzeria Renzo Oriandi

デザイン：Alberto Rosselli, Isao Hosoe

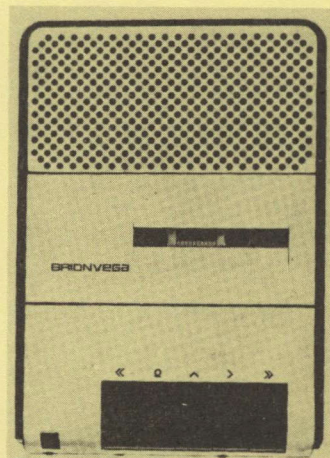
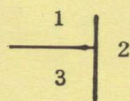
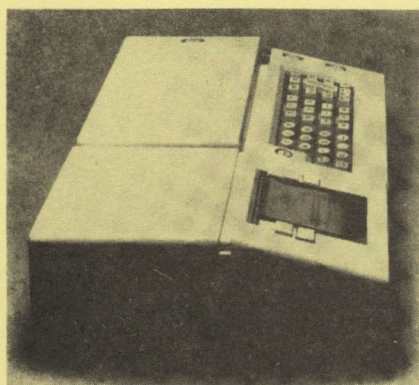
公共輸送機器に最大限のコンパクト性と安楽性を与えることに努力し、特に、外観と通常余り考慮の払われない後部座席の居住性に解決を見出した。(写真-2)

• Brionvega

Brionvega 社は、その製品の多くに高い質の水準を印象づけることに努め、イタリアのすぐれたデザイナーの作品を利用することにより、デザイン分野に文化的に価値の高い成果をあげた。

• その他、《Gillo Dorfles》の現代美学の一般的概念との関連においてとらえたデザインに関する理論的研究業績、《Domus》のデザイン関係出版活動、《Comunità》の出版活動の中における、建築・都市計画との関連においてとらえたデザインの問題、インダストリアル・デザインの貢献すべき社会性の追求、に対しても授賞された。

注：文中の説明は、審査委員会の批評(Casabella 5/70)より引用。



ノルウェーのデザイン振興機関には2団体ある。即ち

NORSK DESIGNCENTRUM (Norwegian Design Center) と、
LANDSFORBUNDET NORSK BRUKSKUNST

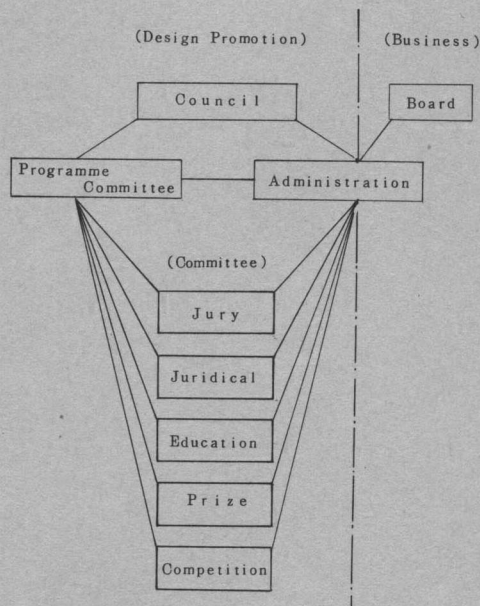
(The National Association of Norwegian Applied Art) である。

NORSK DESIGNCENTRUM はオスロー市の中心部にある19階建の近代的ビル“INDUSTRIENS OG EKSPORTENS HUS”にある。

このデザインセンターは Norges Exportråd (ノルウェー貿易振興会) と Norges Industriforbund (ノルウェー産業連盟) によって1965年に設立された Private institution である。設立に当っては展示場を含めて2万5000 sq. ft のセンターの施設、設備が一切政府出資で賄われたが、現在は50%が政府補助、50%が企業によってサポートされている。(センターは維持管理の困難性からその後1万5000 sq. ft に縮小された) このセンターの目的、機能はデザイン・プロモーションの一語につきるが、この振興活動は“Silent Activity” と呼ばれている。

もう一つの振興機関である LANDSFORBUNDET NORSK BRUKSKUNST がクラフト・デザインの振興に力を入れているのに対し、このセンターはどちらかというと、インダストリアル・デザインの振興に力を入れている。

このセンターの機構は概略図のようになっている。



Council はノルウェーの全産業文化団体、政府機関等の代表50メンバーによって構成され、Juridical, Education, Prize, Competition の各コミッティは夫々3~5人の専門家によって構成され Programme Committee との緊密な連携の下に夫々の分野における Activity を検討し、その Initiator となり、その具体的計画に基づいて Administration 部門が実施に移す仕組みになっている。

展示場は、約50に分類されたプロダクトグループの中の15グループの製品を入替制によって常設展示している。展示品は選定によって決定され、展示期間中Juryによって更に選定が行なわれ、展示品の平均約2%が Well designed Product として選定される。選定商品には ≪ God norsk design ≫ の表示がなされる。

(T)

《小さくて個性的なタイル》

生活形式が和風から洋式へ急速に変わりつつある現在、タイルの需要は従来のバスルーム、キッチンの壁廻りを主とした利用からインテリアへと、その需要は更に増大して行くのではないだろうか？ ダイニング・キッチン、リビング・ダイニング・キッチンというリビング・スペースの拡がりを考えた場合、タイルの利用は今までの単色から更に色のバリエーション、テクスチャの開発、パターンものへと、その利用範囲はさらに拡大されていく。

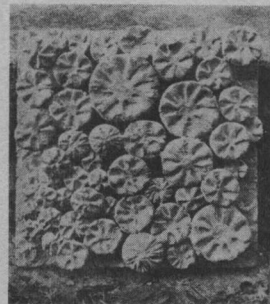
MD(WG) 11/70 は《小さくて個性的なタイル》として、西独 Erbestetten の Schmidt のタイルを紹介している。これは耐久性プラスチック仕上と釉薬仕上の陶製壁タイルで、その標準寸法は40/40 20/40 20/30 20/20 10/20 10/10cmで、陶器の味わいのある自然のテクスチャと、表面仕上のメタリック効果、釉薬によるマットなソフト感などのたぐみな組合せである。タイルは、小規模なパネルとして用意され、壁面はこのパネルの組合せで構成される。(写真1) (T)

《実用的かつ多目的に》

実用的で使い易い、整理し易いということは、使う側にとって見ればデザイン評価の大きな要素である。また形態の多様複雑さが高価につながり、製法の困難さにつながるのであれば決してよいデザインとしての評価はなされない。ここに紹介したLandschützのデザインになる飲食店用食器は大変すぐれたデザインといえる。(MD(WG) 10/70による。)

この食器の特色は、積み重ねが出来、互換性があり、収納に場所をとらず、洗い易いということである。特に円筒を半分に分った形の砂糖入れとミルク入れに、このデザインのオリジナルティーを見出すことができる。

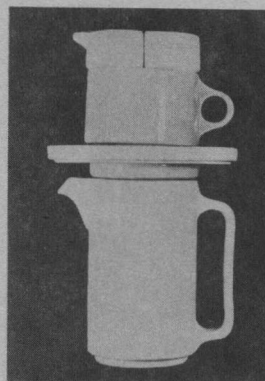
又、ドーナツ型の円板は、各種容器にかぶせて 玉子たて、灰皿、ジャムポットなど多目的に使うことができ、用途の非常に広い組合せ食器である。(写真2) (K)



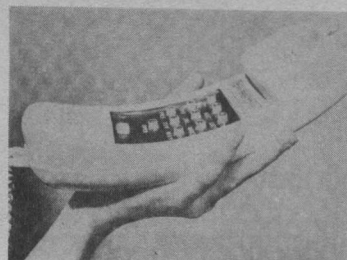
(1)

《亜鉛ダイカストによる電話機の小型化》

材料の適性利用はデザイン開発にとって非常に重要な問題である。「フォームと材料の結合」はステンレススチールがインダストリアルデザインの発展に大きな影響を及ぼしたようにインダストリアルデザインの大きな命題であろう。WESTERN Electricが亜鉛を使って小型電話器の開発を行ったことがMaterial Engineering(A) 7/70に報ぜられている。亜鉛はデザイン上の融通性、適切な重量、安定性、仕上の容易さ、必要許容誤差という点でもアルミニウムより優れていると同誌は述べている。(写真3)(K)



(2)



(3)

〈アルコア学生賞〉

毎年優秀な学生デザインに対しておられる〈アルコア学生賞〉の年度賞が発表された。今回の特徴として低所得者、身体障害者、特殊労務従事者など経済、労働、健康などに特殊な条件をもつ人のためのデザインの重要性を強調している。これは一般の消費財のデザインが脚光を浴びがちなデザイン分野で、ともすれば忘れられ勝ちな、しかも機能的・人間工学的に最も重要なデザイン分野にスポットをあてたものとして注目される。INDUSTRIAL DESIGN (A) 10/70はこの'70アルコア学生賞を紹介しているが、ノースカロライナ州立大学のJ. W. PriceとW. W. Wiebeは歩行困難者用の遠隔操作訓練機をデザインした。この歩行補助機のアルミ・チューブ・フレームの前部キャスターには小さなモーターがついている。また、パーソンズ・スクール・オブ・デザイン(ニューヨーク)のJ. Blockはプラスチックで被覆されたアルミ箔で、耐火性繊維の中にカドミウム電池による熱源を入れた多目的胴衣をデザインしている。(写真-1)(T)

1-A-2

〈ビエール・カルダンの家具〉

ビエール・カルダンといえばファッションメーカーとして有名であるが、家具や卓上用品のデザインもしていることは余り知られていない。用途目的を設定せず黒を基調にしたいくつもの小物入れをセットにした陶製のクリエイティブ・シリーズ(JETRO 45年度収集見本)などがあるが、Home Furnishing Daily (A) 9月24日付はニューヨークで公開されたビエール・カルダンの新作家具を紹介している。これによると、デザインのヒントはインスティテューショナル・スタイルから得ているようであり、特に円筒を座と背のモチーフにした片持支持の椅子はユーモラスで面白い。(写真-2)(K)

HFD

〈現代イタリア家具〉

イタリアのデザイナー G. C. Frattini は「家具は真剣なことであり、決して終着点はない。反作用が反作用を生む。」とっている。(Home Furnishing Daily (A) 9月30日付「ミラノの展示会から」) イタリアの家具のすぐれたデザインは、人間的な親しみのあるスκανジナビアのデザインに比して、機能と工学的フォルムの追求を感じさせる。Home Furnishing Daily で紹介された、写真の白ラッカー仕上のパーセットはCJFRA社の製品で、乗用車フィアットのホイールキャップとフロントグリルに使われているものと同様のクロームメッキのプラスチックが使われている。(写真-3)(K)

HFD



写真-1

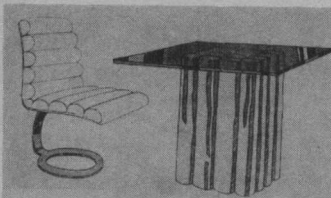


写真-2

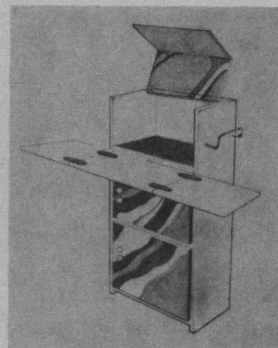


写真-3

〈洗濯物入れの売上げは木目模様が好調〉

洗濯物入れは、欧米の家庭では何処の家庭でも見られる生活必需品である。洗濯物入れといっても、バスルームにおいておくだけではなく、ベッドルームにも極く普通におかれているのが実情である。従って〈洗濯物入れ〉のデザインに当ってはインテリアデザインの一環として総合的な観点からのデザインが必要であろう。材料としては、編組品、木製品、プラスチック製品と多種多様であるが、Home Furnishing Daily (A) の9月18日付で J. Gallagher はニューヨーク地方での〈洗濯物入れ〉の最近の傾向について、デザイン上大変興味ある傾向を次のように述べている。即ち店頭で見られる洗濯物入れは最近木目模様が多く、次いで在来の色彩の強い低価格プラスチック製品、金属製の順で、色彩としては、白、金、ベルディアン、シャイアミーズ・ピンク等である。木目模様が好調である原因の一つには矢張り、バスルーム以外にもおかれるようになって来ているため、他の家具調度品との調和ということが考えられる。

(K)

HFD

〈サイン〉

大人にも子供にも、また、言葉の通じない外国にあっても、だれでも容易に適確に理解できるサイン(絵文字-ピクトグラフ)は、情報伝達手段として各国で研究され、多くのデザイナーが手がけている。EXPO '70においても何種類かのサインとしての〈ピクトグラフ〉が作られた。また、各国の玄関口である空港には必ずこのサインが見られる。国際民間航空機構(ICAO)は1969年に空港用の共通サインを制定したのであるが、この共通サインにはそのサインのもつ機能に疑問がなげかけられている。Design (A) 10/70 では、この ICAO の共通サインをとりあげて次のように論評している。即ち『 ICAO の共通サインは、シンボルというものの表示内容を、可能な限り図解する〈絵〉であるとしたことに誤りがある。 ICAO のサインは表示の意図、伝達内容を利用者が理解出来ないという危険性をはらんでいる。利用者が表示内容の一部分のみに意識をうばわれる可能性、更にはサインの各部分を適宜再編成して利用者が独自の意味を作り上げる可能性があるからである』。としている。(写真-1) 又、ICBLB (The International Committee for Breaking the Language Barrier) が利用者の頭を困乱させるサインの誤った例をあげている。(T)

(写真-2)

1-F-1



写真-1



写真-2

《メキシコのサイン表示》

航空機のスピードアップ、ジャンボ旅客機の就航 世界はますますせまくなり、異った言語異った習慣をもった人々の往来により、見て分る国際絵文字(サイン)の必要性は増大しつつある。Design(B) 10/70によると、南米メキシコでも昨年11月にスタートした全長25マイルの地下鉄路線の開設を機に、L. Wyman のグラフィックデザインによるサインを採用した。写真で木枠の上のリングは「市場」を、黒地に白い3本線は「地下鉄」を意味している。(T)

1-F-2

《始めてメートル法を採用したロンドンの地下鉄など》

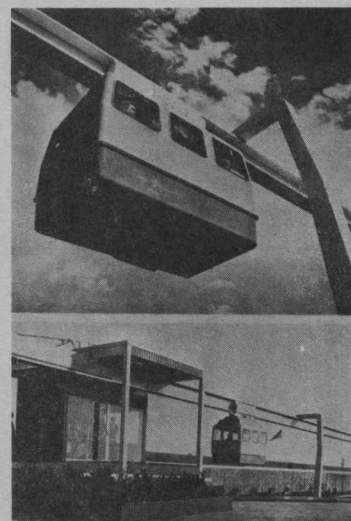
最近、日本のリニア・モーターカーを始め、世界各国は高速度交通機関の研究を活発に行なっており DEUTSCHE BUNDESBahn, BRITISH RAILWAYSなどの新しい車輛デザインも紹介されている。(Süddeutsch Zeitung-zeitgemässe, form 7/70) なお、Design(B) 11/70 には、英国において始めてメートル法により製作されたロンドンの地下鉄が発表されている。(写真2) この車輛は、Metropolitan-Cammell社で製作され、車体はアルミニウム合金製。(T)

1-D-5

《高速交通としてのモノレール》

1903年西独 Wuppertal に出来た13.3kmのモノレールは市民の交通機関として大きな役割を果たしている。日本万国博覧会でも自働制御のモノレールが「動く歩道」と共に話題になった。モノレールはマヒする都市交通の解決策として考えられて来ている。Design 11/70 は、テキサスの Varo社 が今度200万ドルを投じて電子制御のモノレールを開発したことを報じている。このモノレールでは乗客がボタンを押すことにより空中路線網の最短距離を通過して目的地に到着する<6人乗自動タクシー>と、需要の多い路線を走る列車に連絡される<12人乗りのバス>の2種類の利用法が計画されている。(写真3~4) (T)

1-D-4



◀ポータブル洗濯機▶

デザインに対して消費者からの評価がよきびしくなっているが、その評価を裏付けるものとして、アメリカではコンシューマー・レポート(Consumer Reports) 西独ではDM、(共に月間)などが大きな役割を果している。消費者自身も電気製品などを買う場合は、大変慎重に比較検討して決める。

Consumer Reports 9/70 は各種ポータブル洗濯機をとり上げて、いろいろの面からのテストによる比較を行ない、ACCEPTABLE と NOT ACCEPTABLE の2種に分類している。取り上げられたタイプは自動型、二槽型、単槽型、およびCounter-Topの4種類で、製品は日本製品を含む11種類であるが、家電製品に対する米国消費者の判断基準の一例が判って面白い。(写真-1) (T)

1-J-1

◀積み木のオープンシステム▶

段ボールの空箱があると不思議なことに必ずといってよい程、子供はその中に入り込んで遊ぶ。それは家になり、トンネルになり、子供の創造力は次から次へと発展して行く。単純な組合せと形から複雑な組合せと形へ、そして色の変化を求め、自分でバリエーションを考え、大人の思い付かない造形へと発展して行く。

MD(WG) 9/70 に紹介されている積み木のオープンシステムともいうべき"BAUKISTE"は子供の夢と創造力と作ることのたのしさを充たすものといえよう。このBAUKISTE は厚さ8mmの"Taxodur"と呼ばれる段ボールで出来ており、片面は赤、青、緑などの色ラッカーで仕上げられており洗うことができる。片面は段ボールの素地のままで、子供達は自由に絵をかいたり、紙を貼ったりできる。組立ては、部材の縁を重ね、丸いプラスチックネジで、子供が簡単にしめつけできる。138cm×480cm×100cmのカートンボックスには10枚のエレメントと72組のプラスチック製ボルトとナットが入っているが、カートン自体も2枚のエレメントになっている。(写真-2) (T)

1-C-5



写真-1

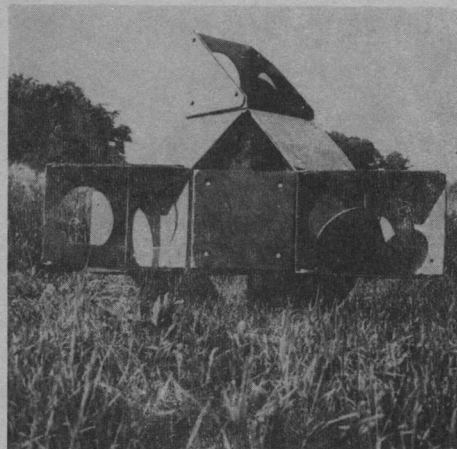


写真-2

◀デジタル腕時計 "Pulsar"▶

必要なときに正確な時刻を伝えるというのは、時計の最も重要な機能である。従来の腕時計は、常に動いている針と、12時間を目盛った文字盤でアナログ的に時刻を示している。文字盤や指針はあくまでも特定の時点を視覚的に伝達する手段としての道具であり、文字盤や指針の装飾化は、時計をアクセサリとして扱う場合は大きな意味をもつが、時計本来の機能ということを考えた場合には多少の問題があろう。今度アメリカのHamiltonが、◀pulsar▶と名付けたデジタル腕時計を発表したが、腕時計にデジタル方式を採用したことは画期的といえる。Design (B) 11/70によると、この世界最初の、エレクトロン部分以外には動く部分のない腕時計◀pulsar▶は石英水晶を使った電子タイマーで毎秒32768回の振動を時計ケースの複雑な孔模様による数字表示に移し変えるものである。ボタンをおしている時だけ時間表示が出る仕組みは大きな特長である。但し、複合回路の採用にもかかわらず、時計ケースが大きくなり、その解決のために有名な金属彫刻家 E. Trova (St Louis) の助けを借りなければならなかった。と述べている。 (写真-1.2) (T)

1-J-6

◀化粧品のラベルに立体写真を利用▶

中元・歳暮の虚礼、品物自体より値のはるパッケージの高級化等について、最近では消費者側からの突き上げが激しい。しかし一方では、酒類、化粧品などの容器には、実用性を離れて製品の高級さと趣味のよさを象徴させることも必要であり、また、激しい競争を乗り切るため、店頭でのディスプレイ効果をパッケージに期待しなければならない。平面に立体感を盛り込んだ3-Dimension◀立体写真▶は、その新しさからみても、この目的にこたえるものであるが、写真の製作法のはん雑さ、コスト高に妨げられて、大量販売品目への応用は難しいとされている。Modern Packaging (A) 9/70によると、アメリカの化粧品メーカーMEM社は、同社の男性化粧品瓶とパッケージに3-D写真を利用し始めた。この試みは、小型カメラで撮影した普通の2-Dスライドから直接3-D写真を作る技術を開発したことと、同社がこれまでも厚手エンボスラベルをビンとパッケージに手貼りしていたため、この厚手3-D写真の手貼りも経費的に従来製品より2~3セントアップでおさえられたことにより可能となった。 (写真-3) (K)

1-L-1

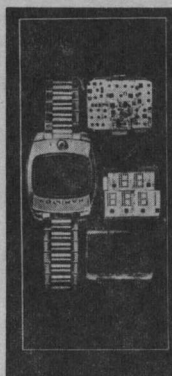


写真-1

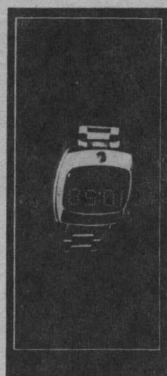


写真-2



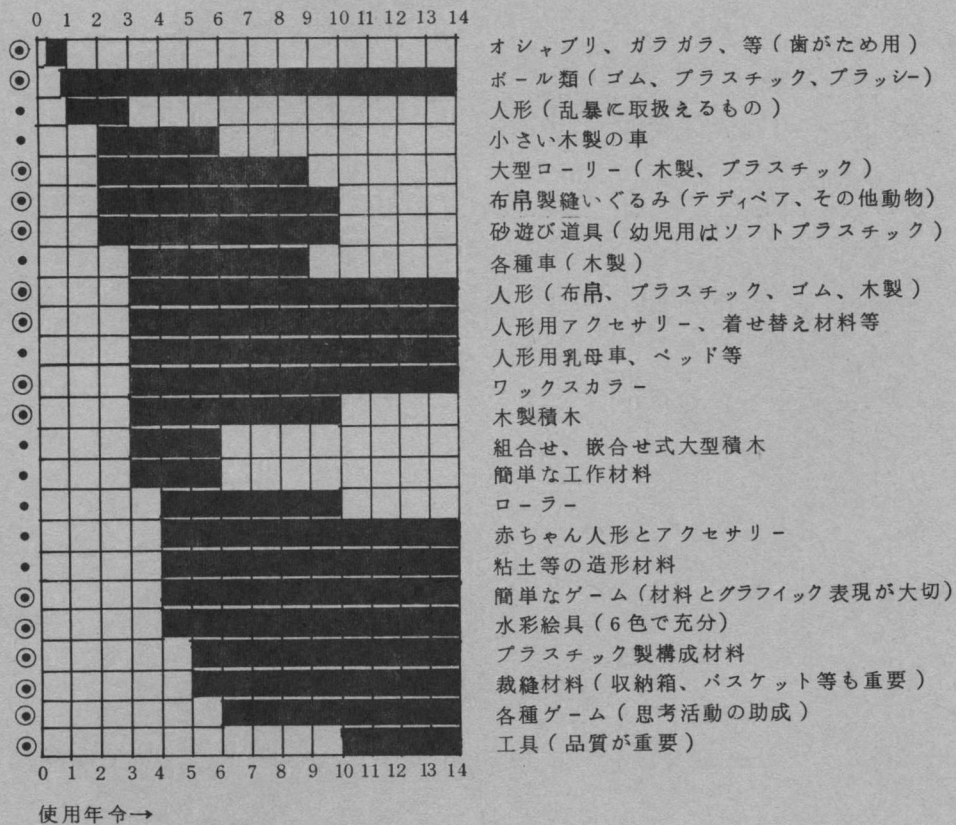
写真-3

◀西独の優良玩具選定制度▶

Steiff の縫いぐるみ玩具、Märklin の鉄道模型など西独の玩具は、品質、機能、デザインの優秀性から日本でもよく知られている。西独においては、玩具需要年齢層の両親の玩具に対する関心は極めて高く、育児・教育のための玩具の展示会も随時開かれている。こういう消費者（両親）教育、優良玩具推進の中心的役割を果しているのが、Arbeitsausschuss Gutes Spielzeug e.V（社団法人 優良玩具推進協議会）である。この協議会は、1954年にウルムに設立された機関であり、心理、教育、医学、デザイン等の専門家によって構成されている。この協議会は、子供達の正しい成長のために、また、両親や教育者に“遊び”の重要性を認識させることを大きな目的にしているが、具体的活動の一つに優良玩具の選定推奨がある。優良玩具の選定は、第1段階として、幼稚園や家庭において一定期間、適応年齢、材料、耐久性、機構、安全性、形、色、大きさ、価格などについて実際の使用テストが行なわれ、評価と要改善点の指摘がなされる。その結果に基づいて協議会の特別委員会の審査が行なわれる。選定された玩具のメーカーおよびデザイナーには、選定証書が交付される。メーカーは協議会の頒布する◀選奨シール▶（写真1）を製品に付して販売することが出来る。一方、消費者にとって、このシールは玩具選定に非常によい指針になっている。



(T)



注：本表は、西独の優良玩具推進協議会が選んだ80種の玩具のうち、必需とされているもの◎印と、重要とされているもの●印のみを抜粋して掲げた。

《ナイフ・フォーク・スプーン》

ヨーロッパの一般家庭で使用される洋食器には、純銀製、銀メッキ製、クロームメッキ製、ステンレス製があるが、一般には高級ステンレス製のものが多く使われている。一概に洋食器といってもその種類は非常に多いが、ナイフ・フォーク・スプーンは同品質で、統一されたデザインで揃えておくのが普通である。ただし、コーヒースプーン・ケーキサーバー・サラダサーバーなどは柄の部分にスタイリッシュパターンを施したものの、プラスチックや陶器を使ったものがよく使われている。ステンレス製の場合は、一般的にそのデザインはシンプルで機能的なものが多いが、最近はエレガント・ルックなもの、装飾を施したもの、一見銀製に見えるような仕上げのものが多くなってきている。最近では、インテリア、家具の傾向としても、スタイリッシュなものが好まれるようになってきており、こういう傾向の中における調和という面からも、スタイリッシュパターンをもつ洋食器のデザインが可成り見られる。例えば、柄の縁に連珠模様のある Pearl-Edge-Pattern (1860) , Shell Pattern (1850) や Louis XVI, Empire などのモディファイされたパターンなどが見られる。洋食器は、ヨーロッパの生活の伝統的体験から生れたもので、そのフォルムと機能は日本の伝統工芸に見る “用と美の調和” に共通している。

写真-1は、Prof. Erik Herlow のデザインであり、写真-2は、Carl Pott のデザインで 柄の先端が、デザイン上のアクセントとなってシンプルな機能的フォルムにまとまりを見せている。

(T)

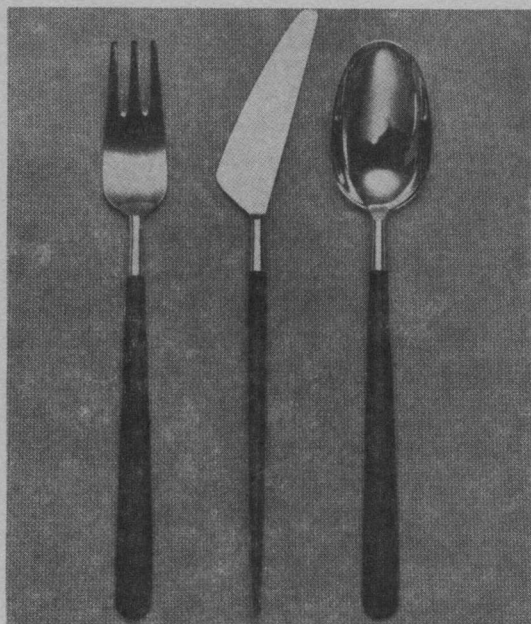
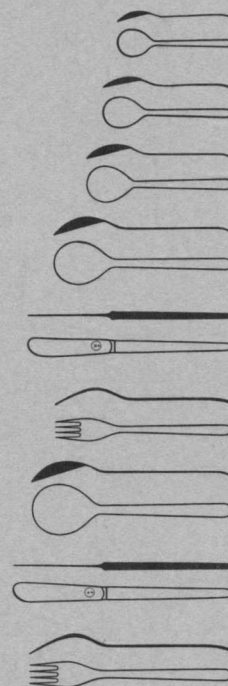


写真-1

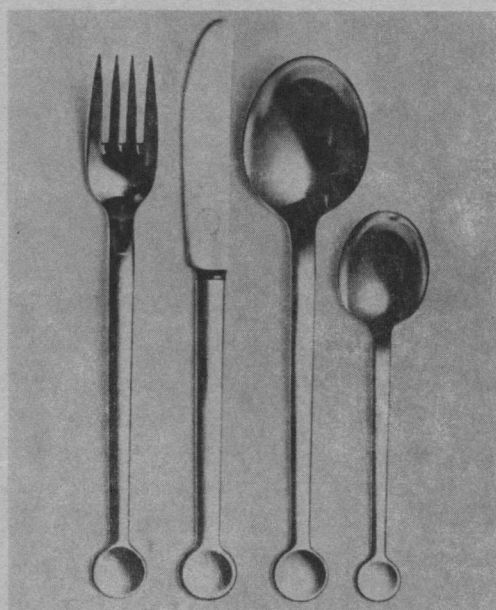
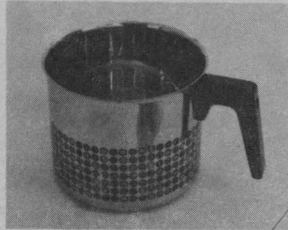


写真-2

◀調理用鍋類▶

肉を料理する。野菜をゆでる。ミルクを沸かす。家庭の主婦にとって鍋類は、最も身近に接するデザインである。品質や熱効率はもちろんのこと、洗い易く 扱い易い という鍋本来の機能、使用に当っての使い勝手、などのほか、使ってたのしいデザインでありたい。

ここに紹介する◀MOSAİK▶と呼ばれる一連の製品は、西独の有名な金属製品メーカーである WMF (Wurttembergische Metallwarenfabrik) の製品である。



本体はCROMAGAN (18/8ステンレススチール) で出来ている。底は厚く (約3mm)、クロマガン - 銅 - クロマガンのサンドイッチになっているため熱効率がよく、かつ、保温の面でもきわめてすぐれている。

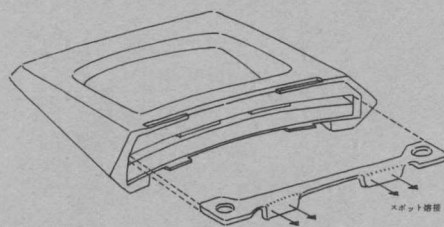
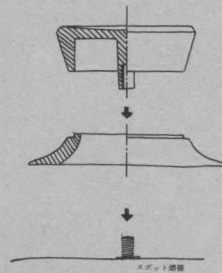
また、鍋類で問題になることの一つに蓋のツマミと、鍋の把手がある。この鍋の蓋は 料理中に水が外にふきこぼれない

ように本体と蓋の嵌め合せに工夫がこらされており、ツマミは蓋にスポット溶接されたボルトにプラスチック製ツマミのねじ込みになっている。(図-1) 把手は4点のスポット溶接された金具にプラスチックをネジでとり付けるようになっており、しかもプラスチックと本体のとり付けは完全に行なわれ、長期間使用に対しての把手のグラツキもない。(図-2)

このシリーズは“若い世代”向きとされ、外側に赤と白の可愛らしい点描模様がついているが模様なしのものもある。

鍋類にはその用途により、直径、高さ、容量などがいろいろあるが、デザイン上の参考として表に示した。(図-3)

注：この商品は日本貿易振興会 (JETRO) の昭和45年度の収集品である。



	フライ用	肉用	野菜用	ミルク用(蓋無)	
径 cm	16	16	16	14	
容量 l	1.5	2.0	2.5	1.5	
高さ cm	7.5	10	14	12	
価格	模様無	約 3700円	約 3900円	約 4700円	約 3400円
	(邦貨) 模様有	約 3900円	約 4100円	約 4900円	約 3600円

INDEX

INDEXは、日本産業デザイン振興会が、定期・不定期に購入している海外のデザイン関係雑誌（情報資料目録参照）の目次から、わが国の産業デザイン振興に参考になるとと思われる項目を、分類別に再編成して作成したものです。今回は、各雑誌の70年の9月号・10月号を中心にまとめてみました。（※印は、今月号の記事の参考にしたものです。）

デザイン一般

（整理番号）		（雑誌略号）	（月／年）
1-A-1	学校デザインの3つの障害	ID	9/70
1-A-2	※アルコア学生賞	ID	10/70
1-A-3	デザインのヴィジョン（IDSAの年次総会）	ID	10/70
1-A-4	インダストリアル・デザインの定義	ID	10/70
1-A-5	人間とコンピューターをつなぐもの	DS	11/70
1-A-6	※インダストリアル・デザイン「黄金コンパス賞」	CB	5/70
1-A-7	建築家にもノーベル賞？	LAT	9/70
1-A-8	ベルリンは国際的デザインセンターになろうとしている	FR	50
1-A-9	《学校の課題》 オフィスの仕事場	FR	50
1-A-10	西独国鉄 デザイン路線を開発 — 対談	FR	51
1-A-11	アフリカ諸国のデザイン教育	GG	9/70
1-A-12	※西独のデザイン賞 《GUTE FORM 70》	MD	11/70

インテリア

1-B-1	白から始めて徐々に色を加えなさい	HB	9/70
1-B-2	新しい台所	MW	No. 37
1-B-3	第4の壁は光と自然を贈る（家庭のガラス壁）	ZH	9/70

家具

1-C-1	スカンジナビアの新しいデザイン（色と形）	HB	9/70
1-C-2	台所（アメリカの家庭用厨房機器）	ID	9/70
1-C-3	最近のデザインから（家具デザイン紹介）	ID	9/70
1-C-4	システム家具の開発	ID	9/70
1-C-5	※積み木のオープンシステム	MD	9/70
1-C-6	オフィス家具 オフィス機器	DS	11/70

1-C-7	子供の居る家の家具	DIH	9/70
1-C-8	スカンジナビアの家具展示会 1970	AT	8/70
1-C-9	エウロドムス3(家具展示会)	BW	9/70
1-C-10	エウロプラスチック 1970 (家具展示会)	MBL	8/70
1-C-11	プラスチック家具	AW	8/70
1-C-12	ユーグント式家具	MD	10/70
1-C-13	イタリア家具 '70	MD	10/70
1-C-14	システム家具シリーズ	MD	11/70
1-C-15	ポリウレタンの組立て食卓	MD	11/70
1-C-16	小物デザイン(ワイン・ラック、鍋敷 他)	MD	11/70

交通

1-D-1	スポーツ・カー	CR	9/70
1-D-2	空港と航空機インテリア特集	ID	10/70
1-D-3	ジャンボジェット機の椅子設計と機内施設	ID	10/70
1-D-4	※高速交通としてのモノレール	DS	10/70
1-D-5	※始めてメートル法を採用したロンドンの地下鉄	DS	11/70
1-D-6	BOND-BUG 市街地用乗用車	BW	9/70

材料・建材

1-E-1	実用的な壁(壁タイルのデザイン)	MD	10/70
1-E-2	※小さくて個性的なタイル	MD	10/70

サイン・シンボル

1-F-1	※SYMBOLOLATRY (国際民間航空機構の空港共通サイン)	ID	10/70
1-F-2	※メキシコのサイン表示	DS	10/70
1-F-3	OLYMPIA-WERKE 社の新しいマーク	GG	9/70

照明器具

1-G-1	机にとりつけるパイプ製照明器具	ID	10/70
1-G-2	パイプに組みこんだ照明器具	ID	11/70
1-G-3	プラスチック、メタル等を材料とした照明器具	MD	10/70

食器

1-H-1	テーブルの芸術 '70 (陶製食器のデザイン)	MW	No. 37
1-H-2	多目的食器の試み(組み合わせ食器)	MD	11/70
1-H-3	※実用的かつ多目的に(レストラン用組合せ食器)	MD	11/70

ディスプレイ

1-I-1	KNOLL INT. の新しいショールーム	LD	9/70
1-I-2	コペンハーゲンのインテリア常設展示場	MD	11/70

電気機器

1-J-1	※ポータブル洗濯機	CR	9/70
1-J-2	FM/AM ポータブルラジオ	CR	9/70
1-J-3	スライド・プロジェクター	CR	9/70
1-J-4	WESCON インダストリアル・デザイン賞	ID	10/70
1-J-5	※亜鉛ダイカストによる電話機の小型化	ME	7/70
1-J-6	※デジタル腕時計 <<PULSAR>>	DS	11/70
1-J-7	ブラウンのブラック・ボックス	FR	51

人間工学

1-K-1	電子測定器による人体生理反応の人間工学的研究	CB	5/70
-------	------------------------	----	------

パッケージ

1-L-1	※化粧品のパッケージに立体写真の利用	MPC	9/70
1-L-2	コントラクト・パッケージ業界の現況	MPC	9/70
1-L-3	オランダのパッケージ年間賞 <<金のクルミ賞>>	IBG	8/70
1-L-4	第19回国際包装サロン	EBL	10/70
1-L-5	英国の包装コンクール(STARPACKS'70)	EBL	10/70

グラフィック

1-M-1	第3回国際ポスター・ビエンナーレから	DS	11/70
-------	--------------------	----	-------

情報資料目録

《産業デザイン情報》の資料は、各種定期・不定期刊行物、海外調査員（JETRO）および産業意匠改善研究員の調査報告、カタログ その他の海外情報資料から選んだものです。

〔編集〕 来栖義郎(K)、高藪 昭(T)、関谷之朗(S)

定期購入刊行物

雑誌略号	雑 誌 名	国別
AW	Arkitektur und Wohnform	(WG)
AR	Architecturaj Record	(A)
A. SR	Architecture of USSR	(USSR)
AM	Arts Menagers	(F)
BW	Bauen + Wohnen	(WG)
BM	Baumeister	(WG)
BLZ	Bellezza	(I)
CMR	Camera	(S)
CB	Casabella	(I)
CI	Ceramic Industry	(CI)
CM	Civiltà delle Macchine	(I)
CAM	Communication Arts Magazine	(A)
CR	Consumer Reports	(A)
DIH	Das Ideal Heim	(S)
DSZ	Das Spielzeug	(WG)
DI. SR	Decorative Art in the USSR	(USSR)
DS	Design	(B)
DQ	Design Quarterly	(A)
DM	Domus	(I)
EBL	Emballages	(F)
EGM	Ergonomics	(B)
FR	Form	(F)
FP	Furniture Production	(A)
GG	Gebrauchsgraphik	(WG)
GH	Good Housekeeping	(A)
GP	Good Packaging	(A)
GRS	Graphis	(S)
HFD	Home & Furnishing Daily (日刊)	(A)
HGA	House & Garden (アメリカ版)	(A)